

令和5年度 第3回 高岡市地域公共交通活性化推進協議会 議事要旨

日 時：令和6年2月16日(木) 10:00～11:30

場 所：御旅屋セリオ 5階ホール

委 員：19名中17名出席

議事要旨：以下のとおり

【議題】高岡市地域公共交通計画の最終案について

資料1～4に基づき事務局説明

計画最終案の記載事項について委員全員から質疑応答の時間を設けたが質問等なし

【委員からの意見】

○富山県交通政策局 交通戦略企画課長代理 谷村主幹

- ・県の計画も策定が大詰めを迎えており、素案の取りまとめの中で、委員の皆様から県民の参画のために具体的にどう取り組んでいくのかという意見をいただいた。計画で提示した施策を予算に盛り込んでいるが、県だけで取り組むのではなく、市町村とともに取り組むのが大切である。例えば、高岡市の計画の中にあるノーマイカー運動などは県でも実施しており、協力できる部分に対しては県と市町村が連携するとともに、交通事業者、県民を巻き込んで取り組むことが重要である。

○富山県高岡土木センター 石井次長

- ・計画策定においては、計画を立てることが目的になってしまっていて、そのあとのチェックや見直しがなかなかうまくいかない事例も見受けられる。今回の計画については具体的なPDCAについて記載されているので、実効性のある計画になると思っている。計画に掲げる施策については、市だけで取り組みを進めるのではなく、各事業者や県とともに進めていけば各事業が円滑に進んでいくのではないかと考えている。

○高岡警察署 中山地域交通官

- ・今後、計画に掲げる取り組みを進める上で、警察としては市民が安心して過ごせるように連携していきたい。レンタサイクル事業の拡大にあたっては、ヘルメット着用の義務化についての周知や、運転前の呼気検査の呼びかけを行うなど、各取り組みに応じた対応をしてまいりたい。

○西日本旅客鉄道(株)金沢支社 地域共生室企画課交通企画室 鹿野室長

- ・再構築実施計画が認定された城端線・氷見線については、あいの風とやま鉄道や高岡市をはじめとした沿線市と連携をとって再構築実施計画に掲げられた施策の着実な推進を通して、高岡市の掲げる「コンパクト・アンド・ネットワークのまちづくり」の実現、移動ニーズに適した持続可能な公共交通ネットワークの構築に向けて引き続き取り組んでいきたい。
- ・本日から敦賀開業の北陸新幹線のチケットが発売となった。地元にとっては第二の開業となり、全国から注目を浴びるいい機会になるため、観光の活性化に力を入れていきたい。

○あいの風とやま鉄道(株) 助野専務取締役

- ・今年3月からのダイヤ改正で、利用者に便利で分かりやすいダイヤになるよう富山～高岡間に一部パターンダイヤを導入する。福岡駅にエレベーターを設置するなど、利便性の向上に努めているので今後も支援賜りたい。
- ・最終案 P35 に記載のある新高岡駅・高岡駅の利用者数の目標値においては、人口が減少していく中でも利用者の増加を掲げており、高岡市の意欲が感じられる。
- ・城端線・氷見線の再構築の実施計画では、事業主体の変更が計画から5年後となっているため、その頃は高岡市の地域公共交通計画の期間が終わる時期になるため、特に記載がなかったと思われる。一方で再構築実施計画の中には2年後に沿線にICカードの導入について触れている。市の計画期間内には事業主体の変更には至ってないとしても、それまでの期間に具体的取り組みを進められることから、今後のことも踏まえてあいの風とやま鉄道と城端線・氷見線の連携についての視点を入れてもいいのかもしれない。
- ・最終案の P31 に「先進情報技術の活用」とあり、その中では交通事業者の担い手不足について触れている。弊社でも技術系の社員の確保に苦労している現状である。担い手不足解消のためのAIやMaaSの活用について、具体的にはどういうイメージであるのか。

⇒事務局回答

- ・AIやMaaSの活用については、自動運転などの革新的な技術導入というよりは、オペレーションの活用による省力化をイメージしている。例えば、お得な切符をMaaSやDXを活用して販売することで、切符の発券や売り上げの管理を省力化するなど、今ある技術でできることから取り組みを進めていくイメージである。この他運行管理の面で、例えば人事の管理に関するシステム導入に対する支援なども想定している。

○万葉線(株) 楠代表取締役専務

- ・車両の老朽化が進んでおり、これに関しては高岡市や県とも連携し、国の支援制度などを活用してまいりたい。交通系ICカードの導入については、令和6年度中の導入に向けて取り組んでいる。公共交通ネットワークづくりを図っていくことで、時間を有効に使うことができる。万葉線としては今後も利用者が安心安全な定時運行に努めている。

○加越能バス(株) 取締役自動車部長代理 奥村営業課長

- ・全国的な問題でもある運転手不足については、当社でも問題となっている。一方で、路線バスの運行を維持しながら観光需要にも対応することで、高岡市の観光発展にも寄与していきたい。交流人口が増えれば公共交通の利用者増にも繋がる。運転手不足解消に向けて、今後も高岡市や県に対し実状を共有するとともに支援を賜りたい。

○富山県タクシー協会高岡ブロック 高岡交通(株) 渡邊代表取締役専務

- ・地域のタクシー事業者として、もりまるやノッカル中田の運行について、地域の方々と協力しながら、今後も運用に携わっていければと思っている。北陸新幹線延伸の影響により、交流人口が増加すると思われるので、利用者目線で利便性の向上について考えていきたい。

○富山運輸支局 景山首席運輸企画専門官

- ・国土交通省では今後計画に掲げる事業の実施にあたって、活用できる多様な補助メニューを準備しているほか、今問題となっている運転手不足に対応した支援として、免許取得費用の補助や MaaS 等の活用支援もあるので、このような制度を役立てていただきたい。
- ・今回の能登半島地震の影響により、今までできていたことでできなくなったことなどはあるか。国の支援制度を援助する上での参考とさせていただきたい。

⇒鶴谷部長回答

- ・道路アクセスを考えた場合、富山県側から能登地域に向かうために高岡市に震災の支援関係者が多く滞在している。一方で、観光利用に対するアクセスについては、積極的な呼び込みが難しいと思われる。交通事業者に対する支援や補助メニューについては、引き続き市や事業者へ情報をいただきたい。

○北陸地方整備局富山河川国道事務所 堀口計画課長

- ・国道8号の整備について構想を検討する計画段階評価を進めているところである。この整備によって中心市街地の渋滞を軽減することで、更なる公共交通の利用促進や新しいまちづくりに繋がると考えられるため、本計画を推進いただきたい。

○高岡市連合自治会 藤田副会長

- ・市民協働型地域交通システムについては、計画できめ細かい支援について記載いただけることに感謝している。P35 の評価指標②の公共交通不便地域の割合に関しては肌感覚で認識していただく必要がある。どこの地域がどう不便なのか、何が問題なのかという認識を自治会でも持つ必要があるので、策定された計画を自治会へも共有いただき、現状を認識して支援制度を活用しながら、各地域でどんな取り組みができるかPRに努めていただきたい。また計画を立てて終わりではなく、年次ごとに進捗を報告いただくことで、連合自治会でもどんな取り組みができるか考えていきたい。

○社会福祉協議会 会長代理 上見事務局長

- ・社会福祉協議会としては、市民が日常生活を安心安全に暮らせることを考えており、市民協働型地域公共交通システムが今後も地域に見合った形で、市民と一緒に考えて運営されていくようなシステムとなってほしい。計画の5年間でどのくらいの事業規模となるのか興味がある。フォローアップも含めて、今後も各事業の取り組みや支援を応援していきたい。

○高岡商工会議所 西田専務理事

- ・経済的などころで言えば、今後は観光産業の育成が今後の大きなテーマとなっている。高岡市の強みは交流拠点としての機能が備わっていることである。特に公共交通の鉄軌道については、非常に便利で連携が取れている。市民はもちろん、今後増えるであろうインバウンドの方々にとっても利便性が高く、観光と鉄軌道は非常に親和性が高いと考えている。ICの導入で万葉線やあいの風とやま鉄道、新幹線との連携を図りやすくなると思う。将来的には公共交通全体の一体性が確立されるようになれば、市内の移動利便性がよりよくなると考える。

○高岡市商工会 齊田事務局長

- ・「コンパクト・アンド・ネットワークのまちづくり」ということで、まちなかへの都市機能の集約やまちなか居住支援を施策として掲げており、商工会でも都市機能の集約ということで商店街等への集客支援を続けていきたいと考えている。今回の震災をきっかけに高岡市に来た人、高岡市で何か事業を行おうとしている人がいると思われるので、こういった方々を対象にした創業支援や事業支援についても今後取り組んでいきたい。

○公益社団法人高岡市観光協会 原野専務理事

- ・観光協会では、高岡駅・新高岡駅に観光交流センターや案内所を持っている。観光客からの問い合わせの中では、乗り継ぎに関するものが全体の3分の1強を占めている。外国人観光客からも1日10件くらいの問い合わせがある。高岡市に観光に来る方にとって目的地に行くための高岡駅・新高岡駅からの二次交通の利便性向上は重要であり、デジタルサイネージの活用や各交通事業者の連携を深めることでより利便性を高めることに繋がると思う。

○金沢大学 中山教授

- ・計画全体については、前回の協議会でお示しいただいた素案を元に、各委員の意見やパブリックコメントなども反映して、よくまとめていただいたと思う。
- ・パブリックコメントには、市民の方から、様々な視点で、ご意見やご要望をいただいている。多様化するニーズに対して、今後、計画に基づき、どのように事業を進め、公共交通の利用促進、維持活性化を図っていくかが重要になる。
- ・DXの活用にあたっては、MaaSをはじめとした、技術活用を目指していくこととされているが、具体的な手法や取り組みがイメージできるように、またそのイメージを共有できるように取り組みを進めていただきたい。
- ・市民協働型地域交通システムについては、高岡型コミュニティ交通の確立を目指す上で、要となる取り組みであると感じている。現在、導入されている地域の取り組みが持続できるような仕組みを構築していくとともに、実証中の地域や、今後取り組みを進める地域に成功事例を共有するなど、導入地域が拡大するよう、横展開に向けた工夫をお願いしたい。
- ・計画に記載いただいた具体的な施策をどのように実施していくのか、PDCAサイクルをしっかりと回していただくとともに、年次ごとに進捗の確認をしていきたい。

※質疑応答、意見交換終了後、最終案について、出席委員より承認をいただいた。

上記、議事を終了し閉会した。

以上